

広島経済大学陸上競技部

●〒731-0192 広島県広島市安佐南区祇園 5-37-1

●Twitter: @TandF\_hue

# 2015 日本IC

廣 広経大陸上スポーツ



# 走り幅跳び 藤原

# 5位入賞!



私たち学生にとって最高の檜舞台である全日本 IC は、連日の猛暑を吹き飛ばす熱い戦いが繰り広げられた。広経大（短距離ブロック）からは9名4種目出場した。そんな中、藤原（3年）が走り幅跳びで自己ベストをマークし見事5位入賞を果たした。

## 移動日

●大会が行われる競技場は大阪にあるヤンマースタジアム長居だった。この競技場は 2007 年に世界選手権が行われた競技場である。また、記録が出やすいことでも有名であった。そんな中、競技できることに期待やワクワクが止まらなかった。大阪には広島から新幹線で移動し、地下鉄に乗り換えてホテルに着いた。私たちの泊まるホテルから競技場まで少し距離があるため、地下鉄を乗り継いで通うという形になった。大阪は人が多いので正直この移動が一番しんどかったかもしれない（笑）こうして3泊4日の遠征が始まった。

## 1日目

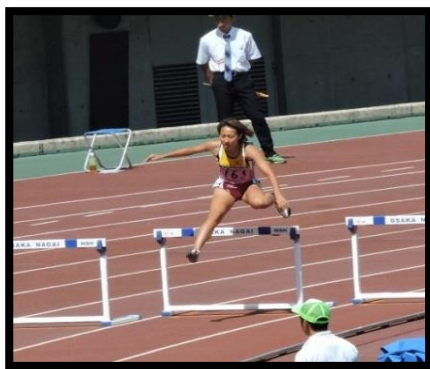
●大会初日、チームトップ競技は石本(2年)の三段跳びから始まった。1回目は足が合わず、2回目は踏み切りに成功したが14m26(+0.7)。3回目も踏み切りが合わずファールとなってしまった。最終的に2回目の14m26(+0.7)の記録で本領を発揮することができなかった。しかし、まだ2年生。早いうちにこの舞台を経験できたことは大きいだろう。さらに彼のメイン種目は110mH。来年は110mH、三段跳びと2種目で全日本 IC 上位を狙いたい。石本(2年)は「初めての全カレでの目標は自己ベストを出すことで自分が持っている良いパフォーマンスをすることでした。」

しかし、それを達成することができなかったのが悔しかった。これからはその経験を活かし来年の全カレでは決勝に行けるように努力します。」と語った。

## 2日目

●この日は、小山田の400mH、藤原の走り幅跳び、男子4×400mRの3種目だった。

女子の400mHには小山田が出場したが、シンスプリントの怪我が気がかりだった。前半期も怪我で走れない日々が続いていたため、悪化せずに終わってほしいと思っていた。しかし、レースが始まると前半もいいリズムで乗っていて全体的に見てもかなり良かった。タイムも62秒02のシーズンベストで、まさに復活を感じさせる走りだった。小山田は「一年生から全カレの経験ができてよかったです。来年以降、強くなった自分で戦いに行きたいと強く思いました。」さらに今シーズンは、まだ日本ジュニアが控えている。しっかり調整して上位を狙いたい。



●藤原は今年で日本インカレ3回目ということもあり、その表情には余裕さえも感じられた。しかし、過去2回は惜しくも入賞を逃しており、今回こそは！の思いでピッチに立っていた。1回目の跳躍は7m40(+0.8)この日は1回目から足が合っていてうまく踏み切っていた。2回目は7m46(+1.4)。2回目終了時ではベスト8には入っておらず、見ている方はヒヤヒヤしたが、3回目に7m55(-0.2)を跳び順位を5位まで上げ、決勝に残った。追い込まれてから記録を伸ばせる強さが成長した証だった。5回目以降も7m64(-2.1)と自己ベストで記録を伸ばしたが、順位は変わらず5位だった。3位までの差は2cmで表彰台まであと僅かだった。藤原は「有

言実行出来たのは良かったと思います。表彰台は厳しいと思っていたのですが、蓋を開けてみると優勝も狙えていたので、気持ちの面でもっと上を目指すべきだったのかと思います。来年は優勝します！」今回の記録7m64は向かい風2.1mでの記録なので、追い風であれば、、、と思うがこの悔しさが彼をまた強くするだろう。次は10月2日の国体に出場する。上位に入る力は十分にある。

●そして、男子4×400mRが始まった。オーダーは吉田-岡本-西山-浅野。同組には予選会で激闘を繰り広げた広島大学の姿もあっ



た。レースは前半から遅れをとる形となった。スピードが持ち味の1走吉田(1年)はバックストレートを抜けたカーブあたりから差が開きはじめる。続く岡本(2年)、西山(3年)、浅野(4年)も常に最後尾から追う展開となり、全国のレベルを痛感しながら組最下位でレースは終わった。タイムは3分18秒70。予選会よりかなりタイムが落ちてしまった。レース直後、目に涙を浮かべる選手もいたが、目標としていた大会に出場できた選手は皆最後に「楽しかった」と口を揃えて言った。来年はこの大会で決勝に行く、と視線は既に来年を向いていた。



## 感想

自分が出場し出してから初めての大人数での全カレ参加となったので、刺激ももらえたと思います。まだまだチームとしての団結感が必要だと感じたので、全カレに出場したメンバーが雰囲気などをみんなと共有して、意識を高めていくことが必要だと思いました。そして、応援ありがとうございました。これからも広経陸上部をよろしく願います。 3年 藤原駿也